

平成21年度 第2回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成21年10月20日(火)
午後2時00分～午後3時50分
- 2 開催場所 宇都宮市役所 14大会議室
- 3 出席委員 17名
廣瀬委員長, 熊本副委員長, 田中委員, 小林委員, 九津見委員,
石嶋委員, 檜山委員, 櫛淵委員, 山野井委員, 大出委員, 塚田委員,
青木委員, 郷間委員, 岡村委員, 石澤委員, 千保委員, 金子委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議 事
 - (1) 報告事項
 - ①地域教育推進体制の整備について
 - (2) 協議事項
 - ①今後の「成人教育」について(第1回)
- 7 その他
- 8 閉会
- 9 発言の要旨

廣瀬委員長	それでは、会議次第に基づき、本日の議事を進めてまいります。 報告事項が1件、協議事項が1件ございます。 まず、報告事項①「地域教育推進体制の整備について」を事務局から説明願います。
事務局	【説明】
廣瀬委員長	ありがとうございました。これはつまり推進拠点の設置を考えているということなのでしょうか。ポイントを補足して説明してください。
事務局	資料の2「全市的な地域教育の推進における基本的な考え方と取組の方向性」の部分にあります通り、それぞれの地域の特色を活かしながら、生涯学習課と各生涯学習センターが連携して、市域全体の人づくりをより活

性化させていくための体制づくりや仕組みづくりを現在検討している、ということでございます。具体的には、全ての生涯学習センターで実施される事業を強化していくと共に、全市を対象とした新たな地域教育推進拠点の設置について検討しておりますので、ご理解いただければと思います。

廣瀬委員長

わかりました。一点は、各地域における教育を推進するため、統括機能の充実強化を図るということ、そしてもう一点は、センターなど何らかの形で地域教育推進拠点を設置するということですね。今後検討が進められれば、もっと具体的な形で見えてくるのだらうと思います。いかがでしょうか。このことについて、ご意見・ご質問があればお願いいたします。

よろしいですか。今回は、進捗について報告されました。現在、生涯学習課が庁内の他の部局と調整を取ったり、また本庁とセンターにおける機能の役割分担について整理を図るなど、地域教育推進拠点の設置に向けた検討を行っているということですので、そのような構想がいずれ出てくるのだということ、委員の皆様にはご理解・ご了解いただきたいと思えます。よろしいでしょうか。

一同

意義なし。

廣瀬委員長

それでは、続いて協議事項に入らせていただきたいと思います。

協議事項①「今後の『成人教育』について（第1回）」を議題といたします。今回は、委員の皆様にご協議していただく時間を持ちたいと考えております。まずは事務局から説明願います。

事務局

【説明】

廣瀬委員長

スケジュールについてはいかがでしょうか。

今回と次回の会議で議論を進め、今年度中に基本的考え方と具体的方策についての骨子を作った上で、来年度答申ということになります。この日程でご了解いただけますでしょうか。

一同

意義なし。

廣瀬委員長

それではよろしくお願いたします。

続いて「成人教育」の意義・役割について、事務局から説明願います。

事務局

【説明】

廣瀬委員長

それでは、これから当該テーマについてのグループワークを行っていただきますが、やり方をご説明させていただきます。事務局のグループ案に

従い、四つのグループに分かれます。そこで20分間、現代の大人、まずは成人期の大人に欠けているものについて議論していただきます。意見交換が終わりましたら、2回目のグループに移ります。新しいメンバーで、2回目は高齢者に欠けているものは何かということについて、議論してもらいます。最後に3回目のグループに移り、具体的にこれらの課題を解決するためのアイデアを考えていってください。

つまり、成人期の大人に欠けているもの、高齢期の大人に欠けているもの、そのために行政がすべきこと、という三つのテーマについて議論していただこうと思います。話し合う際は、始めに一人ひとりが模造紙に自分の意見を書き込み、それを元に意見交換するという手法で進めていってください。

それでは、それぞれのグループにご移動をお願いします。

【グループワークを実施】→別紙参照

廣瀬委員長

皆様どうもお疲れ様でした。

それでは、各グループについていた担当職員に、それぞれのグループで出た意見や方策について、簡単に報告をお願いしたいと思います。

事務局

1グループでは、大人の問題について、「モラル」という言葉がキーワードとして出てきました。一人ひとりが持っているモラルや価値観は異なるけれど、ぶつかったり話し合ったり、そういうところから人間関係や良い社会ができていくのではないかという意見がありました。

高齢者については、もっと高齢者に優しい社会が必要だという声が出ました。例えば駅で切符を買うことも難しい高齢者もいますが、単にそれを高齢者自身の問題としてしまうのではなく、お互いをきちんと認め合い、支援していけるような社会をつくっていかねばという話がありました。

解決策としては、人同士が交流できる機会が大切だという意見が出て、特に「世代間交流」という言葉がキーワードとなっていました。例えばお年寄りが、ベエゴマや凧作りといった自分達が昔やった遊びを、若い人や子ども達と一緒にやるような機会がもっとあると良いということです。高齢者も活躍の場を持つことで、生き生きとして、自分に自信が持てるようになります。実際にそのような機会をつくったところで、非常に良い成果が生まれているという話もありました。

廣瀬委員長

ありがとうございました。では2グループ、お願いします。

事務局

2グループでは、今後の方策の面で、ベースとなる自治会への加入が大切であることや、また1グループの世代間交流の話と同じように、様々な施策においてあまり世代を分け過ぎず、交流することもお互いの理解のために必要なのではないか、という意見が出ました。

また、印象的な意見としては、高齢者の出会いの場の提供事業をやってはどうかというものがありました。一人暮らしをして孤独感に苛まれる高齢者を減らすために、高齢者が一緒に生活する、それは男性同士・女性同士などでも良いのですが、そういった出会いの場を行政が作っていくことも有効ではないかというアイデアが出たところです。

廣瀬委員長

なかなか面白そうな事業ですね。それでは3グループ、お願いします。

事務局

3グループでは、大人の問題として、子どもに「挨拶しなさい」といながら自分自身が挨拶できていない大人が多い、という具体例が挙げられました。また、高齢者に関しては、市の施策や福祉に期待を大きく持ち過ぎている、頼り過ぎているなど、高齢者の甘えを指摘する声が出ました。

今後の方策としては、世代間の交流を多く図ってほしいということ、さらに、地域に貢献したいという市民の気持ちを生かすため、これから市で展開していく様々な講座や市民大学の中で、地域の方が企画の段階から参加できるような仕組みを作ることも良いのではないかと、という意見がありました。

講座等の内容については、自分達が楽しむようなものだけでなく、地域のためになるようなものをもっと作ってほしいということでした。ただ、例えばカラオケなどの趣味的な講座であっても、そこで楽しみながら参加者同士が仲良くなって、その後も一緒に何かやろうと福祉施設へ慰問に行ってみるなど、何かしら良いことにつながるし意味があるのでは、というようなご意見もいただきました。

廣瀬委員長

ありがとうございました。では最後に4グループ、お願いします。

事務局

4グループでは、成人期や親の問題については、単純に今の若い世代だけが悪いというのではなく、彼らを育てたその親の世代にも問題がある、という意見が出てきました。しかし高齢者についても、一方的に非難する訳ではなく、若い人や子どもを導いていく立場として、高齢者は自分の持っている良いものをもっと表に出していくべきではないか、という前向きな意見交換が行われました。

今後行政としてやるべきことについては、個人の経験や能力を提供できるような機会、例えば高齢者と子どもが昔遊びをするような、個人が活躍でき、異世代と触れ合える場を積極的に提供していくこと、また、公共施設の居場所をどんどん活用できるようにすることなどの意見が出ていまし

た。

それから、道徳について啓発を進めるため、親に改めて学んでもらう機会をつくることの提案や、非道徳的な行為にはペナルティを科すなど厳しく対応していくべきでは、といった意見もありました。

さらに、まちづくりの拠点になっているコーディネーターについて、その役割が成人教育にとっても重要だという声が出ていました。いろいろなご意見を聞くことができ、非常に勉強になりました。

廣瀬委員長

どうもありがとうございました。

委員の方々から、今日の議論について何かご意見はありますでしょうか。

最後のテーマは一番難しい部分だったかと思いますが、熱心に意見交換していただき、ありがとうございました。

それでは、以上で社会教育委員の会議を終了させていただきます。

平成21年度 第2回社会教育委員の会議
協議事項①「今後の『成人教育』について」で行われたグループワークについて

1 意見交換のテーマ

- (1) 現代の大人（成人期）に欠けているものについて
- (2) 現代の大人（高齢期）に欠けているものについて
- (3) 現代の大人の問題を解決するため、行政がすべきことについて

2 各グループで出た意見について

- (1) 現代の大人（成人期）に欠けているものについて

【1グループ】（田中委員，檜山委員，塚田委員，石澤委員）

○模造紙に記載された意見

- ・モラルの低下（ポイ捨て，割り込み，持ち去り，食べ残し，時間を守らない）
- ・世間の常識を知らない
- ・社会性・協調性に欠ける
- ・地域の行事や集会への参加が少ない，関心がない
- ・コミュニケーション不足，挨拶ができない
- ・怒れない大人が多い
- ・個人主義の考え方
- ・自分勝手・自己中心的で，周りに気を使わない
- ・自分が周囲に様々な影響を及ぼすという自覚がない
- ・自分の子どもさえ良ければと考える
- ・子どもの前でも平気で規則を破る
- ・言葉使いが悪い
- ・会議・集会等で声（自己主張）の大きい人が強くなっている
- ・プライオリティがない
- ・身体を使わない
- ・家族第一は良いが極端
- ・大人の枠を突き破り，自分の失敗や間違いなど情けないところも子ども達に見せたり話したりする勇気が必要
- ・今を楽しんだりワクワクする気持ち，遊び心があると良い

○グループ内協議において出された意見

- ・モラルが低下して，自己中心的な人が増加している。
- ・目上の人と同年代の人との区別がついていない人が多い。
- ・若い人はマニュアル化・パターン化されていることに安心している傾向がある。
- ・会議などでは，強く主張する人に引きずられ，同調してしまう人が多い。
- ・地域の集まりで，その地域で昔から築いてきたものを知らないまま自分の意見を通そうとする人がいる。
- ・周りに気を使わず発言する人と，気を使いすぎて発言しない人・・・どちらを問題と思うか，それも人の価値観によって異なると思う。

- ・それぞれの価値観が異なるため、お互いに違う部分を不満に思ったりするのだろう。
- ・モラルは各人が持っているけれど、それが共通化されていない気がする。自分のモラルと人のモラルの間には違いがあるが、周囲の人との対話や関わりが足りないため、そのことを理解できないのだと思う。そのため自分の考えだけが正しく、スタンダードだと思ってしまう。
- ・大人同士のつながりやコミュニケーションが不足しており、協調性がない。
- ・昔は買い物をするにも魚屋や肉屋などで人との会話があったが、現在はコンビニやスーパーで話すことなく用を済ませることができるようになるなど、時代が変わり人との交流がなくなっている。
- ・核家族の影響もある。祖父母と同居すれば昔からの日本人の生活を教えてもらえ、また多くの目で子どもを見ることでしつけがきちんとできた。今は教えてくれる人が少ない。
- ・自分は義母と同居しているが、食事の準備や子育てなど、核家族だったらついもっと適当にやっちゃっていたかもしれない。親と子以外で一緒に生活する人がいるということは、自分を規正するという点において良かったと感じる。

【2グループ】(小林委員, 櫛淵委員, 青木委員, 千保委員)

○模造紙に記載された意見

- ・生活や仕事に追われ、人としての生き方を自ら問うゆとりがない
- ・他者に求める傾向が強く、他のために自分は何ができるかという発想に乏しい
- ・自分より若い者に良い生き方を求める割に、自分の生き方は範を示すようになっていない
- ・個人主義で自分のことだけに興味があり、他のことには関心を持たない
- ・協調性がない、協力しようという気持ちが薄い
- ・子どもとの意思疎通が弱い
- ・朝食を用意しない親がいる
- ・福祉施設(生活施設)に入所している家族への面会が乏しいケースもある

○グループ内協議において出された意見

- ・短大生からのヒアリングでは、40～50代で朝食を用意しない親が多い。また、福祉施設でもその年代の人が家族(老親)を迎えに来なかったり、施設に来て職員と洗濯物の受け渡しだけして家族には面会しないなど、問題を感じる。
- ・仕事の有無や年代によっても大きく差があると思う。
- ・他者に求める傾向が強い。
- ・呼びかけても振り向かないなど、周囲に関心のない人が多い。
- ・PTAの集まりでは、個人の楽しみにつながる内容なら集まるが、子どもや地域、学校のためと呼びかけると人が集まらない。
- ・自分の子どもが走る、発表するなどの役割があると保護者は参加してくるが、大きな目的の下には集まってくれない傾向にある。
- ・協調性が欠けている。行事などに顔を出すと何かやらされるのではと、警戒して参加してくれない。
- ・子は親の歩いた道を歩く。子どもにとって親の影響は大きいので、先人の知恵も使いながら、我が子をどう育てるべきかよく考えねばならないと思う。

【3グループ】（九津見委員，山野井委員，郷間委員，金子委員）

○模造紙に記載された意見

- ・子どものしつけができない（放任，過保護）
- ・公共のマナーが悪い
- ・挨拶できない人が多い
- ・近隣の人との付き合いが少ない
- ・自ら進んで会合や地域行事に出席する人が少ない
- ・意見交換時，発言する人が少ない
- ・自分の趣味だけにこだわっている
- ・自分の意見を押し通す
- ・他人と比較する
- ・価値を物・金におく，物質的要求が強い
- ・他人のことには関与しない
- ・異世代など自分と異なる様々な人との交流が少なく，他者に対する理解や関心が薄い
- ・広い視野や物事の捉え方ができない
- ・日本語が不明瞭

○グループ内協議において出された意見

- ・一人よがりや自己中心的な人が多い。他人に文句があっても目の前では言わず，関与しようとしなない。
- ・子どもが挨拶するかについては敏感であるのに，保護者自身が挨拶してこない人が多い。こちらから挨拶しても，返さない保護者もいる。
- ・学校でも挨拶できない保護者がいるなら，外の道などにおいてはなおさらできていないと思う。
- ・国や地域によって挨拶の習慣は異なる。特に栃木県は照れ屋な県民性で，挨拶が苦手なのかもしれないが，一度打ち解ければ仲良くなるため，そのきっかけをつくることが重要。挨拶を拓げるためのしかけをつくっていくことも良いと思う。
- ・小学校の挨拶運動で，校庭に並んで児童に挨拶しており，今後中学校でもぜひ行ってほしいという話が出ている。挨拶がコミュニケーションにおいてとても大切なのだと思う。
- ・近所の人顔をわかっていない人が多く，会合があっても参加しないなど，人同士の交流が少ない。
- ・女性は奥さん同士のつながりなどを持っているが，男性は仕事があると難しい。
- ・PTAの集まりは圧倒的に女性が多い。入学式・卒業式などに出席する父親は増えているものの，普段は仕事のため参加が厳しいのかもしれない。
- ・学校の参観日は，集まった母親同士で騒ぎ過ぎるなど先生が大変な面もあるが，父親参観だとお互いがわからないため逆に静かである。
- ・交流の場がないので，適切な場をどう提供していくかが課題。また，出てこない人を出てこさせるのも難しい。
- ・運動会や文化祭などは，人同士が交流する良い機会となっている。
- ・これまで体育祭への参加者が少なかったため，応援でもいいから来てほしいと呼びかけ，

お弁当を用意して地域の人々が一緒に食事する機会を作ったら、今年はテントに座りきれないほどの人が集まった。初めて会う人と交流することで知り合いができ、挨拶も増える。井戸端会議の場からまちづくりへとつながっていくのだと思う。

【4 グループ】(石嶋委員, 大出委員, 岡村委員, 熊本委員)

○模造紙に記載された意見

- ・マナーが悪い, 常識・規範意識・社会ルールへの意識の低下
- ・公共性や道德心の欠如
- ・他人とコミュニケーションをとる能力がない
- ・挨拶ができない
- ・言葉使いが悪い
- ・協調性がない
- ・自分勝手, 利己的, 自己中心的
- ・人間関係の希薄化
- ・地域や行政への協力・参加意識がない
- ・高齢者や先人への尊敬・感謝の気持ちがない
- ・新しいモラル, 古いモラルという認識の仕方でも事を考える傾向がある
- ・住んでいる街への愛着が不足
- ・ものを作るという創意性・創造性が欠けている
- ・夢と現実の区別がついていない

○グループ内協議において出された意見

- ・生活の糧となることと趣味・教養とを分けて考えており, 実生活に直接つながらないことに対してはあまり意欲がないように感じる。
- ・社会常識やルール・マナーをわかっていない親が多い。さらに, わかっていないことや間違っていることを自分自身が気づいていないことが問題だと思う。
- ・幼稚園では, しっかりしている親としていない親に二極化している。子どもはできるのに挨拶できない親や, 突然キレる親もいる。
- ・授業中じっとしてられない子どもなど, 親の家庭教育がしっかりされていない影響かと思う。親のそのまた親による教育ができておらず, 甘やかして育てられたツケかもしれないが。

(2) 現代の大人(高齢期)に欠けているものについて

【1 グループ】(田中委員, 大出委員, 郷間委員, 千保委員)

○模造紙に記載された意見

- ・自分の尺度で物事を処理する傾向が強い
- ・ものの見方や考え方が一方的な面がある
- ・「昔はこうだったのに今のは」と批判する
- ・自分の意見を相手に押し付ける, 我がまま
- ・生活がどうしても内向的になりがち。元気であればもっと外に出て, 健康維持に努めると良い

- ・地区の会合への参加が少ない，役を依頼されても協力する人が少ない
- ・趣味や好きなことにはしっかり取り組む
- ・時代に遅れているかな，としばしば不安になる
- ・自分の年齢に「まだまだ」と「もう」が入り混じって迷いが出る

○グループ内協議において出された意見

- ・我を張る人は高齢者の中に多い気がする。長年の考え方や生き方は変えにくいから。
- ・高齢者が頑固で主張を曲げないのは，自信のなさの表れかもしれない。
- ・高齢者が地域活動やボランティアなどに参加しない理由として，人生が残り少ないから，人に左右されず自由に自分の好きなことをしたい，という意見をよく聞く。
- ・高齢者にとっては，活躍する場というより活躍する気がないのだと思う。
- ・高齢者が好きなことをしたいという気持ちもわかるが，好きなことを6割やったら，4割は他の人のために何かする，若い人に伝えていく…という気持ちを持ってもらえると良い。
- ・高齢者は子どもに厳しく孫に甘いが，それは問題と考えなくてもいいかもしれない。子どもに対しては親として子育ての責任があるが，孫のことはどうしてもかわいく，愛情を持っているということなのだと思う。
- ・高齢者は駅で切符やカードが使えないなどとも言われるが，現代社会での生活や技術が高齢者にとって難しくなっているということも確かである。
- ・高齢者が頑固というのは自分のスタイルで長く生きてきたから仕方ないという面もあるし，現代社会についていけないことも，実際ITなど社会のシステムが難しくなっているということもあり，高齢者自身の問題・悪いことと言ってしまっているのかと，疑問に思うことも多い。
- ・行事や講座など，外に出てくる高齢者は問題ない。元気に生き生きと生活することが本人にも周りにとっても一番良いことだが，外に出ないと体が弱くなり，一層外に出られないという悪循環に陥る。高齢者が外に出ることを自ら萎縮してしまうことが問題であり，そのような人に対しどうするかということを考えていかなければならない。
- ・老人クラブで歩け歩け大会を行っているが，距離が長いと参加者が減るので，多くの人が参加できるよう距離を短くし，皆で歩くようにした。速く長く歩きたい人には物足りないが，一緒に歩くことでコミュニケーションが生まれている。

【2グループ】(小林委員，檜山委員，岡村委員，金子委員)

○模造紙に記載された意見

- ・生きがい不安
- ・健康不安
- ・孤独不安
- ・自分のこれまでの経験や考え方とは異なった状況・考え方に対するオープンで柔軟な姿勢がない
- ・新しい物や流行等に対する好奇心がない
- ・関心がないことには全く振り向かない
- ・自己中心的な傾向

- ・趣味には一生懸命だが、長年経験してきた技術や特技を周囲の人に生かそうとしない
- ・周囲の人との関わりに遠慮がち
- ・昔話をしすぎる
- ・教える事と説教をはき違えている
- ・役職にしがみついている

○グループ内協議において出された意見

- ・仕事で培ってきた技術や経験を地域に還元していない。
- ・老人クラブの中にも、毎年解散したり人が集まらないなど問題を抱えるところがある。
- ・高齢者が団体の役職にしがみついていると、いつまでもその会が活性化しない。
- ・高齢者が昔話をしたり教えようとしたりすることが、単なる説教になっている場合も多い。
- ・高齢者は、今後どう生きていくかという生きがいの面や健康の面で不安を抱えていたり、孤独感を持ちながら我慢している人が多いと感じる。
- ・高齢者は自分を守るためか、新しい物事に対して取り組む意欲が少ない傾向にある。例えばアメリカでは家族で同じテレビ番組を見るが、日本ではそれぞれが異なる番組を見るため、世代間でギャップがあり笑いのツボも異なる。高齢者が若い世代の意識や生活に対しもっと積極的に首をつっこんでいくことも大切かと思う。

【3グループ】(九津見委員、塚田委員、櫛淵委員、熊本委員)

○模造紙に記載された意見

- ・言い出したらその通りにやらないと気がすまない
- ・若い世代の価値観や習慣などを認めない
- ・退職後地域に出てきた時、それまでの職業によって声が大きかったりする
- ・いつまでも地域の役職をやりたがる、ずっと現役の時の気分である
- ・あまりにも福祉に望みをかけ過ぎる
- ・周囲が見えない
- ・他人の目を気にし過ぎる
- ・配慮不足
- ・口調がきつい
- ・子は親の道を歩くため、手本となってほしい

○グループ内協議において出された意見

- ・見栄を張る、言い出したら聞かない、良いことだけを覚えているといった高齢者が多い。
- ・退職後、自己主張の強い人が会に入ってくると乱されて困ることがある。
- ・出てこない人も問題があるが、地域のことがわからないのに急に入ってきて自分の意見を主張するなど、出てきても難しい場合がある。
- ・凶々しい面があったり、感覚が鈍っていると感じる人もいる。
- ・敬老会でお世話をすると高齢者に甘えが見られる。また、福祉が充実し、独居老人に給食を出したりしているが、もっと生活が厳しい立場の人もたくさんいるので、行政の福祉施策に疑問を感じることもある。
- ・高齢者も、常に大人としての節度を持ち、子どもや若い世代の手本となるべきである。
- ・親から言われること、言ってくれる人がいることのありがたさを感じる。高齢になると、

- 注意されたり教わったりなど、人に言われることがなくなってしまう。
- ・退職後、地域に戻れない人も多い。独居老人などを定期的に伺いながら見守ることも大切。
 - ・高齢者は若い世代に対して寛容になったり、歩み寄る気持ちが必要。逆に若い世代も、長い間人生を歩んできた大人として高齢者を認めることが重要だと思う。

【4グループ】(石嶋委員, 山野井委員, 青木委員, 石澤委員)

○模造紙に記載された意見

- ・自分は何もできないと思い過ぎている
- ・極端に自信を失って、迷いが大きい傾向にある
- ・もっと自信を持って行動してほしい
- ・限界を自分で決めてしまう。高齢期には高齢期の成長や豊かな思いがあるはずなのに…
- ・我慢し過ぎ
- ・他の見本・手本となるような行動をしたり、指導してほしい
- ・厳しさが足りない、優し過ぎ
- ・物事にこだわる
- ・自分の考えを若年層に押し付ける
- ・他人の悪口を言い過ぎる
- ・マナーの悪い人がいる
- ・他へも自分へも、ゆるしが必要。子どもに標準ばかりを求めてこなかったか、家族のありのままを認めてきたか

○グループ内協議において出された意見

- ・高齢者の中にも自分勝手にマナーの悪い態度をとる人がいる。
- ・高齢者は自分の中でいろいろと我慢し過ぎている気がする。
- ・地域デビューできないなど、良いものをたくさん持っているのに表に出さない人が多い。
- ・高齢者はもっと表に出て、若い人や子どもを導くなど社会貢献をしてほしい。

(3) 現代の大人の問題を解決するため、行政がすべきことについて

【1グループ】(九津見委員, 大出委員, 岡村委員, 石澤委員)

○模造紙に記載された意見

- ・生涯学習や親学等への取り組みに関する情報を市全域から収集し、地域に提供すると良い
- ・地域教育力の向上をはかるため、コミュニケーション力を高め世代間交流を深めること
- ・地域の行事等はマンネリ化しないよう多くの人の意見を取り入れ、常に新鮮味を持たせること
- ・地域行事のやり方の工夫。その他大勢の人の役割を考えること
- ・講座や行事は半日で終了するなど、長続きするよう無理のないやり方で
- ・老いは夢を失うことから。夢は自信となるので、特技を他の人のために生かせるような機会(生涯学習センターの講座など)をつくと良い
- ・昔遊び(凧作り)や百人一首大会などを開くと良い
- ・背中を押してくれたり、グチを言い合える仲間ができると良い
- ・伝統を重んじつつ、新しい事に取り組む勇氣

- ・楽しい、ワクワクする気持ちをおこす工夫
- ・成人も高齢者も、お互いに聴く耳を持つこと
- ・失敗も笑って許してもらえるような雰囲気・土壌づくり

○グループ内協議において出された意見

- ・行事などはマンネリ化しやすいので、世代間交流ができるなどの工夫が必要。このテーマは行政だけでなく、地域でも抱えている課題だと思う。
- ・昔遊びなどを行うと、高齢者が生き生きと活動でき、子どもに敬意を持たれるなど高齢者の自信につながる。北生涯学習センターで行われている北洲塾という講座では、現在も趣味的なものや法律の勉強など様々な内容を扱っているが、そういった講座の中に昔遊びなどを取り入れることも良いと思う。
- ・地区の体育祭で、選手でなく応援役でもお弁当を出すから来てほしいと募ったところ、参加者が増えたという話を聞いた。少し方法を変えることで、人は出てくるしコミュニケーションも生まれる。他にも、例えば長時間でなく半日で終わるイベントや講座を開催するなど、多くの人が参加しやすい方法を考えることが大切だと思う。
- ・何かやってみようかと思って出て行った時、そこで良い思いをしたり、仲間ができたことが重要。その後も仲間によって背中を押してもらえし、やる気が出てくる。
- ・若い人やお年寄りが前向きに意見を言い合えるような、交流の機会を持てると良い。
- ・大人は正解でないと発言してはいけないと考えてしまうことが多い。今回のように正解が一つでないテーマについては、自分の考えが合っているか自信がなくても、発言やアイデアをどんどん出していくことが大切だと思う。

【2グループ】(石嶋委員、檜山委員、千保委員、熊本委員)

○模造紙に記載された意見

- ・子育て教室・介護教室等に少しでも「社会の支え合い」についての内容を取り入れる
- ・広報紙で今回のテーマの問題をコンスタントに伝える
- ・社会参加を促す観点から広報紙の活用を拡大する
- ・自由と責任、権利と義務をはっきりさせる
- ・各種施策における年齢区分の考え方
- ・高齢者の出会いの場の提供
- ・民生委員の増員・充実
- ・自治会への加入率を上げる

○グループ内協議において出された意見

- ・地域には多くの世帯があり、見守りが徹底できないことが高齢者の孤独感につながることから、民生委員を増員できると良い。
- ・孤独と感じている高齢者に対して、行政が出会いの場を提供していくことも有効ではないか。そこからグループホームや共同生活につながっていくと良いと思う。
- ・世代間のつながりを大切にすることが必要。
- ・自由と責任、義務と権利のバランスが大切。義務を果たさず権利を主張し過ぎるとそこに軋轢が生じる。高齢者にも、若い者を育てる責任がある。
- ・年齢に関係なく、自治会の加入率を上げることが効果的だと思う。自治会加入を強制とし

てしまっても良いのでは。

- ・自治会や町内会で介護教室を行ったり、保育所で近隣の親子に子育て支援の講座を開くなど、地に足のついた活動が土台になると思う。
- ・広報紙などを活用しながら、社会で支える仕組みがあることを市民の意識に浸透させていけると良い。

【3グループ】(田中委員、櫛淵委員、青木委員、金子委員)

○模造紙に記載された意見

- ・行ってみたい、参加してみたいと思えるような出会いのきっかけの場をつくる
- ・世代間の交流を図る企画
- ・高齢者が持っている技術や得意なことを地域で活用してもらい仕組みをつくる
- ・高齢者が企画の段階から参画できる体制をつくる
- ・講座を充実させる(親学講座、シルバー大学、まちかど教室)
- ・若い人に負担がかからないような企画をする
- ・ボランティア活動の活性化(引きこもりがちの人たちをなるべく仲間に入れる)
- ・自治会を強化する
- ・行政の決まりは地域や高齢者も守る
- ・地域に行政の方の参加が少ない

○グループ内協議において出された意見

- ・自己主張ばかりする人にはなってはいけない。
- ・人を集めるには、何かうまい汁がないと駄目だという話を聞いた。
- ・世代間が交流できる企画など、出会いの場所を提供することは良いと思う。
- ・小さなことでもいいので、いろいろな人が参加しながら、少しずつ良い方向へと変わっていくことが大切。
- ・シルバー大学では、グループの活動のみで地域に還元されていない。地域に戻って活用できるような仕組みを県に要望している。
- ・シルバー大学などは、終わってからのの方が人同士のつながりが深い。皆役に立ちたいという意識はあると思うので、学んだことを社会に生かしていくという自覚を持って参加してもらえると良い。
- ・潜在的に社会貢献したいという人は、実は多いと思う。ボランティアの育成に関わっていると、企画・提案したいという思いを持っている人がいるので、そのような人を生かせる仕組みづくりが必要。
- ・単なる楽しいとか食べ物があるといったイベントのようなものではもう満足されない。これからは、市民が運営に参画できるイベントや講座が必要だと思う。その際、行政が準備を整えてから係や役員を決めようとするとは出てこない。企画の段階から市民を引き込んでいくことが重要である。そのためにも、団塊の世代をターゲットにボランティア養成を行うなど、人材育成の取組を進めていかねばならない

【4グループ】(小林委員、山野井委員、塚田委員、郷間委員)

○模造紙に記載された意見

- ・他のために役立つという実感がもてる活動の場を提供する
- ・学び・楽しみ・助け合いなどの多様なニーズを把握し、それらに応える活動を用意する
- ・大人が顔を見せる場を提供する
- ・道徳に関する講演会などを多く開催する
- ・規則を破った時にはペナルティーを科すような条例等をつくる
- ・健康保持・増進のクラブに力を入れる
- ・健康づくり推進員による活躍をPR
- ・市の施設の開放
- ・地域コミュニティセンター等の職員やコーディネーターの養成、資質の向上策
- ・地域コミュニティセンターの指導

○グループ内協議において出された意見

- ・行政・自治会・学校など各機関が連携して、高齢者が活躍できる場・仕組みをもっとつくっていくことが今後の課題だと思う。
- ・高齢者は健康について関心が高いなど、各人がどのような学びを求めているのか、的確につかむ必要がある。
- ・市の事業・制度が知られておらず、PRの方法が下手。市の広報などをもっと活用していく必要がある。
- ・道徳教育を充実させることが大切。マナー違反に対してはペナルティーを科しても。
- ・現在地域スポーツクラブを推進しているが、今後さらに市の施設の開放を進めてほしい。
- ・地域人材の育成が大切。
- ・生涯学習センターや地域コミュニティセンターが、ボランティアやコーディネーターなどの人づくりやまちづくりにもっと関わってけると良い。